令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	児童・生徒が主体的に学び行動し、対話的に学び高めあう力を育み、地域の資源等を活用した活動を取り入れ、社会に開かれた教育課程を編成する。	①児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業を実践する。 ②地域資源を活用した授業の実践や近隣の学校等との交流及び共同学習を継続・発展させる。	①授業改善に向けた工夫点や改善点など、校内研究で検討した内容を踏まえた指導案を作成し、教員一人 1 回研究授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践に繋げる。 ②地域の資源や外部講師を活用した授業を発展させると共に近隣の学校との交流の仕方を検討し、より充実できるようにする。	①教員一人 1 回研究授業を行い、研究で取り組んだ内容に基づいて授業を行うことができたか。また児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」が実現できたか。 ②地域の資源等を活用した授業を実践することができたか。また新しい形での近隣の学校等との交流を行うことができたか。
2	児童・生徒指導・支援	児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた専門性の高い指導を行うと共に校内指導体制をさらに整備する。	①児童・生徒の一人ひとりのニーズを把握し、指導・支援の充実に向けて校内で組織的に取り組む。 ②児童・生徒の実態に応じて、ICT 機器を活用し、教育内容の充実を図る。	①校内の支援体制を整理し、校内外支援担当と「学部コーディネーター」が連携して、ケース会の実施や児童・生徒の指導・支援を行う。 ②「ICT プロジェクト」チームを中心に視線入力装置や「iPad」等の ICT 機器の活用を推進し、授業や日常生活の指導に取り入れる。	①ケース会や児童生徒の支援について、校内外支援担当等と連携して、組織的に取り組むことができたか。 ②視線入力装置や「iPad」を使用した指導方法についての研修会を実施することができたか。また児童・生徒の実態に応じて、ICT 機器を活用することができたか。
3	進路指導・支援	個々のライフキャリア・ワークキャリアを見据えた進路指導・支援を行う	①一人ひとりの発達段階に応じたキャリア教育が実践できるように保護者・各関係機関等と連携を取りながら進路指導・支援を進める。 ②児童・生徒が「キャリア・パスポート」を活用できるように全学部で取り組む。	①進路説明会等の実施方法、進路に関する情報提供の方法を工夫して保護者への理解啓発を図ると共に、個別面談等を通して本人、保護者、担任等で進路に関する内容を共有する。 ②実際に児童・生徒が「キャリア・パスポート」を活用する中で、各学部で活用するための課題を整理し、改善していく。	①進路に関する保護者説明会や見学会への参加者を増やし、理解啓発をさせることができたか。また個別面談等で進路に関して保護者と十分に話し合いをすることができたか。 ②「キャリア・パスポート」を活用し、有効な指導をすることができたか。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容	
				具体的な方策	評価の観点
４	地域等との協働	地域のセンター的機能の充実を図るとともに、共生社会の実現のために地域と連携した活動の機会を設ける	①地域に本校の持つ資源を発信し、地域のセンター的機能としての役割を果たす。 ②「地域に開かれた学校」を意識し、地域、保護者へ適時情報発信を行う。	①教材データベースを作成しＨＰで情報を発信したり、本校の地域支援の内容について近隣の学校等に周知したりする。 ②定期的に情報を更新したり、内容を見直したりして、学校への理解を促進するためのＨＰや「Twitter」の充実を図る。	①教材データ等の情報をＨＰで発信することができたか。地域支援のパンフレット等で本校のセンター的機能について地域へ発信していくことができたか。 ②ＨＰや「Twitter」で有効な情報が発信されたか。
５	学校管理 学校運営	保護者や地域から信頼・信用される安心安全な学校づくりを行う。	①教育環境の整備に取り組み、児童・生徒が安心安全な学校生活を送ることができるようにする。 ②風通しのよい職場づくりを促進し、事故不祥事の防止に努める。 ③児童・生徒の人権を尊重し、安心で居心地のよい学校生活になるようにする。	①耐震化工事に伴う教育環境の変化の中で、教育活動における動線等の工夫等を行う。 ②連絡・報告・相談等の意識を高め、「ヒヤリハット」等の報告等を全職員で共有し、事故・不祥事防止に向けた啓発を継続して行う。 ③人権尊重を推進する一つとして「さん」付け呼称を徹底する。	①安心安全な環境を保持することができたか。 ②事故・不祥事等を防ぐことができたか。 ③「さん」付け呼称を確実に行うことができたか。